

春とはいえまだまだ冷え込む日も少なくありませんが、このところようやく日差しに春らしい暖かさが感じられるようになりました。この早春の佳き日に、多数のご来賓並びに保護者の皆さまに、卒業式にご参列いただきありがとうございます。

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。

卒業生の皆さんは、6年前の入学式のことを覚えているでしょうか。6年前の2013年は逗子開成創立110周年の記念すべき年でした。このときから中学の制服は、中学再開以来着用していたジャンパー型から、中高統一デザインのブレザー型になりました。そして、私は入学式の式辞の中で、創立110周年記念の標語として生徒から募集し決定したものを紹介し、中高6年間の過ごし方について話をしました。

その標語とは『未来の海に船を出せ!』です。いま、この言葉を聞いてどのように感じますか? 卒業にあたり皆さんは「未来の海に船を出す」準備はできているでしょうか?

それでは、これから皆さんを待ち受ける未来の社会はどのようなものなのでしょうか。皆さんも感じていることと思いますが、いま社会が大きく変わろうとしています。あっという間に普及したスマートフォンは、すでに90年代のデスクトップパソコンの数百倍、数千倍の性能を持っています。さらに、AIの進化や車の自動運転などどんどん新しい技術開発が進み、社会の変化の速さには目を見張るものがあります。

これからやってくる未来社会をイメージするキーワードとして、最近「Society 5.0 (ソサエティ5.0)」という言葉が耳にするようになりました。皆さんは聞いたことがありますか。

Society 5.0とは、2016年1月に閣議決定され、日本政府が策定した「第5期科学技術基本計画」において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたものです。その定義は、サイバ

一空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）を指し、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会というものです。これだけでは理解しにくいので、簡単に解説してみたいと思います。

人類の長い歴史を振り返り人間の社会について見てみると、約 9000 年前に狩猟・採集中心の生活から農耕・牧畜が始まり、食料を生産する生活へと移行していきます。そして、生活が安定し都市や国家ができ文明が発展しました。18 世紀には蒸気機関の発明をきっかけとした産業革命で劇的な変化が起き工業社会となり、その後、鉄道や自動車などの交通機関が発達し、航空機の出現で人間が移動する範囲も飛躍的に伸びました。我々が過ごしている現代の社会は、コンピュータやインターネットにより、大量の情報が行きかい瞬時に手に入る Society 4.0 の情報社会ということになります。そして次にやってくる社会が Society 5.0 です。

内閣府の Web サイトでは、次のように解説されています。『これまでの情報社会（Society 4.0）では知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題がありました。人が行う能力に限界があるため、あふれる情報から必要な情報を見つけて分析する作業が負担であったり、年齢や障害などによる労働や行動範囲に制約がありました。また、少子高齢化や地方の過疎化などの課題に対して様々な制約があり、十分に対応することが困難でした。

Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。』

この解説によると、Society 5.0 では人間にとって生活がとても快適で便利になっていくはずですが、一方これまで人類が経験したことのない急激な変化に対応できるのか心配になります。本当に一人一人の人間が中心となる社会なのか、ロボットやAIに支配されるようなことはないのか不安

も感じられます。

社会が変われば仕事の内容も変わり、時代によって求められる能力も当然変わります。それでは、この Society 5.0 の社会で求められるのはどのような力でしょうか。ロボットやAIにはない「人間としての強み」「人間が身に付けるべき能力」とは何でしょうか。

それは、「創造性」そして「新しい価値を見つけ作り出していくこと」だと思います。しかし、「創造性」などはすぐに身につくものではありません。まず土台となる知識や基礎的な学力が必要です。そして好奇心や探求力、失敗を恐れずチャレンジする気持ち、諦めず粘り強く取り組む態度、変化へ対応できる柔軟な発想が求められます。

皆さんは逗子開成で過ごした6年間の中で、この新しい時代に対応できるような力を育んできました。日々の学習やクラブ活動、様々な行事を通して少しずつ成長してきたのです。6年前に中学1年生として入学したときには、まだあどけなさが残る少年たちでしたが、今日、卒業生の皆さんを目の前にすると、この6年間ですっかり成長し逞しく立派な青年になったなと感じます。

学校で勉強するあらゆる教科の内容が、自分自身が持っている適性や才能を見つけ育てるきっかけとなったはずです。また、体育祭や開成祭、OPヨット帆走や遠泳、NZ研修、研究旅行など様々な行事や体験活動、そしてクラブ活動を通して、自分の進路を見つけるヒントが得られたことでしょう。この中高6年間で、いろいろなことにチャレンジし失敗や成功を繰り返しながら、「自分が進むべき道」が見えてきたのではないのでしょうか。

いよいよ「未来の海に船を出す」ときがやってきました。多くの困難が待ち受けているかも知れませんが、自分の力を信じて船を進めてください。

OP実習や遠泳と同じで周りの人間はサポートすることはできますが、自分自信が頑張らない限り前には進めません。順調に進むこともあれば、もがき苦しみやつとの思いで前に進む時もあるでしょう。それでも、進み続ければ目的地に到達します。ときには母港に戻って疲れを癒し、エネルギーを補給してください。文字通り逗子開成は母港（母なる港）であり、母校（母なる学校）です。皆さんには何かあったときに帰ってくる場所があるのです。

さて、逗子開成の教育の原点は、校名の由来ともなっている「開物成務」にあります。これは“人間性を開拓・啓発し、人としての務めをなす。”という意味でした。この「開物成務」の精神に基づき、高い目標を掲げ、困難にあっても挫けることなく、自分の未来を切り開いていってください。逗子開成の6年間で学んだことや体験したことは、皆さんのこれからの人生を歩む上で大きな力になると信じています。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご息のご卒業、本当におめでとうございます。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。

それでは、285名の卒業生の皆さん一人ひとりの旅立ちを祝うとともに、これからの健闘と活躍を祈り式辞と致します。

卒業おめでとう。